

「普通」って何？（1）

子どもの質問には、時に核心を突いており答えに窮することがあるものです。先日、新聞の投書欄を見ていたら、埼玉県和光市の宮崎君という中学生の書いた投書が目飛び込んできました。

その中身は、

僕がプレーをする野球チームで、コーチによく言われます「もっと普通にプレーしろ」と。僕にはその意味がわかりません。

また、バスの中で3歳くらいの男の子が、がやがや騒いでいると母親が「もうちょっと普通にして」と言い聞かせていた。その男の子は「普通」の意味など分からず「静かにして」と注意されたと感じるでしょう。

「普通」とはみんなと同じこと、常識的なことという意味なのでしょう。もし僕が「野球も普通に、勉強も普通に頑張ります」といえばコーチや先生から怒られそう。これも「普通」のことなのでしょうか？

大人の普通と子どもの普通。それが違うのは困ります。これは「普通」じゃないです。

というものです。

まず、普通というのは、広辞苑によると

- ①あまねく、一般に通じること。
- ②通常であること。なみ、一般。

とあります。

改めて考えてみると、私も結構「普通」という言葉を、余り注意せずに使用していることに気付かされます。

投書に出てきた野球のコーチは、宮崎君に「あまり肩に力を入れず、普段どおりのプレーを心掛けなさい」という趣旨で「普通に」といったのではないかなと想像します。少なくとも、「そうそう頑張らずに、他の人並みのプレーで良い」という意味ではないように思います。

また、母親が3歳の子どもにいった「普通に」というのは、公共の交通機関に乗る際は「皆さんが周りの迷惑にならないよう静かにしているのだから、お前も静かにしていなさい」ということだろうと思いますが、宮崎君の言うように3歳の子には理解不能でしょうね。むしろ、3歳の子なら、乗り物に乗るのは大好きで、ついにはしゃぎたくなるのが「普通」でしょうから。

ですから、コーチや母親は「普通に」という言葉ではなく、もっと明確に、分かりやすいメッセージを出すべきでしょうね。そうしないと、メッセージを出した側と受け手の側とで共通の認識を持つことが難しくなります。

そもそも「普通」という言葉自体は、場面によっても、対象となる人によってもその意味するところは違ってきますから、そこを曖昧にしたままだと、伝わるはずのものも伝わらなくなるのは当然です。

宮崎君が、「大人にとっての普通と子どもにとっての普通が違うのはおかしい」と疑問を呈していますが、私は、違って当たり前だと思っています。それは、大人の住む世界と子どもの住む世界の違いともいえるでしょう。

また、野球チーム一つとっても、宮崎君の所属するチームとそれ以外のチームとでは、それぞれ、その中での伝統や人間関係も違いますから、仲間の間では「普通」にまかり通っていることでも、他のチームでは通用しないということが当然あるはずですよ。

つまり、「普通」であるかどうかについては、絶対的な判断基準があるわけではありませんから、いくら自分にとってそれが「普通」だと主張しても、その中身について共通の理解が得られない限り「普通」とはなりません。

(塾頭 吉田 洋一)